

チェルノブイリ通信

2012年6月20日

No.88

■発行 NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26/バスター館203号
TEL/FAX 092-944-3841 Email jimmu@cher9.to
ホームページ <http://www.cher9.to/>
■募金口座 郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャズ支店(支店番号201)(普)7017104



チェルノブイリ医療支援ネットワークは、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、
現地から求められる医療支援を行います。
この活動を通して、日本とベラルーシの人々の心と心のつながりを深めます。



7歳の誕生日をむかえたリューダの愛娘、アンナちゃん。
幼少期にリューダが手入れをし、馴れ親しんだ実家の庭園にいる姿は、まるで当時のリューダ
のようです。

特集:ブレスト第11回検診帰国報告(3)

ベラルーシでの甲状腺内視鏡手術をふり返る
—専門家が見た、支援活動の広がり—

今さら聞けないチェルノブイリQ&A

事務局日誌より主な活動報告

コーヒーキャンペーンのご案内

会員さん紹介コーナー

募金者のお名前とメッセージ

●特集●プレスト第11回検診帰国報告(3)

ベラルーシでの甲状腺内視鏡手術をふり返る

— 専門家が見た、支援活動の広がり —

昨年秋のプレスト第11回検診に参加していただいた清水一雄先生(外科医、日本医科大学教授)による報告です。昨年の支援活動の他、これまでの甲状腺内視鏡手術や、今後の抱負などをまとめていただきました。

13年目を迎えた支援活動

2011年9月25日から10月2日まで、プレスト第11回検診に参加いたしました。私としては、初参加の1999年以来、13年目を迎えたこととなります。この年は、5月にテレビ取材(「ガイアの夜明け」)を兼ねたベラルーシ訪問があり、ミンスク市にて甲状腺内視鏡手術を行っておりますので、2年間で2度目の訪問となりました。2回目の9月は毎年行われている本来の検診で、今回は医師として日本医科大学内分科外から、竹間由佳先生が、また数年前から毎年、日本医科大学の学生が

した細胞の標本作りと検鏡および診断です。これは、いつも同行する本学病理部の細胞検査士が行っており、この作業に大きな負担がかかります。

参加するようになりましたが、今回も4人の学生(庄田有里さん、亀井信孝君、眞田麻梨恵さん、木佐森舞夕さん)が参加いたしました。このことは医学部学生に対する卒前教育に大変良好な効果をもたらしており、本学における第5学年実習カリキュラムの一環として定着しつつあります。

検診以外に今回も、ミンスク市とプレスト市で二例ずつ甲状腺内視鏡手術が予定されておりました。検診中の超音波検査および穿刺(せんし)吸引細胞診検査は、もはや我々の出る幕はなく、現地医師が一流の技術を身につけ彼ら自身が行っております。我々のやることは吸引

ますが、いつも検診全体の中心的役割を演じております。二連の検診作業が終わった後も一人遅くまで検鏡し、当日のうちに診断を下すという強行軍ですが、これを行うことにより現地医師・組織から強い信頼を得ているのです。昨年引き続き今回も村瀬幸宏さんに参加していただきました。ほかには渡會泰彦さんに以前から何回も参加していただき、このお二人で、染色、診断技術の教育、指導として診断を行ってきており、本検診の中核をなしております。そのほか2009年からは、私が我が国で世界に先駆け、1998年に開発した甲状腺内視鏡手術が行わ



れるようになりました。

これまでの手術をふり返って

今回の報告では、今まで行ってきた甲状腺内視鏡手術を振り返って整理してみたいと思います。きっかけは2007年、本学に呼び内視鏡手術を行ったアリョーシャ・スベヤトーシク、20歳女性でした。それより2、3年前から本術式を現地に普及すべく現地で開催したシンポジウムなどで紹介してきましたが、術式に対する理解度、甲状腺内視鏡手術に必要な手術機器類の不足、設備の問題などの壁があり、なかなか実現まで持つて行く機会がありませんでした。しかし若手医師からは質問などが相次ぎ、興味を持たれていることは実感しておりました。

2006年秋の検診で母の胎内で被曝した20歳女性の乳頭がんを発見しました。この時「百聞は一見にしかず」、この症例を日本に呼び、手術して、その利点を実際見てもらおうと決断しました。付き添いのアルツール医師も含めた二人

の旅費、滞在費、患者本人の入院費、治療費(約400万円)は私の趣旨を汲んでくれた多数の方の協力、特別室を用意し、治療費、手術費用すべてを請求しないという本学の寛大な受け入れ態勢のもと、2007年2月に手術が実現しました。この模様は、テレビ東京のニュース番組「速ホウ!」で2週にわたり報道されました。手術は順調で3日後には退院、浅草、表参道、お台場、デイズニールランドなどを堪能し、傷も首になく大変喜んで帰国しました。アリョーシャは私どもに感謝の気持ちを書いて帰りましたが、その際、私は彼女に言ったことはただ一つ、帰国したら一人でも多くの、医師ならびに医療関係者、友人、親戚、患者にこの傷を見せてやってほしいとお願いしました。

ベラルーシにおける甲状腺内視鏡手術の導入にむけて

翌年秋の検診では彼女は300km離れたピンスクの自宅から手伝いに現れ、その傍ら沢山の受検者

に傷を見せておりました。私は現地医師の今までと違った反響を肌で感じました。現地での甲状腺内視鏡手術導入に前向きでした。その折、検診の行われているブレスト州立内分泌診療所の隣にある外科病院を見学しました。もちろん甲状腺内視鏡手術は行われておりませんが、すでに内視鏡下胆嚢摘出術は行われており、Karl Storzの立派な内視鏡機器類がそろっておりました。私は、甲状腺内視鏡手術もできるとこの時実感し、翌年、この病院での甲状腺内視鏡手術を約束いたしました。

翌2009年10月、プレスト市のブレスト州立病院でこの国第一例目の甲状腺内視鏡手術が実現、患者は31歳女性。手術時間は90分程度で出血もほとんど無く、大変順調な手術でした。良性的結節性甲状腺腫でした。

2010年10月6日、ベラルーシで第2例目が、首都ミンスク市のミンスク州臨床病院で行われました。患者はミンスク市内に在住する29歳の女性、5cm近い大きな腫



①10番病院で行われた手術患者の術前診察。②検診の手伝いに現れたアリョーシャ。術後3年7か月経過。術後経過は大変良好であり、手術創はほとんどわからない。③日本大使館にて。ベラルーシの地図を広げ、松崎潔大使より汚染地区における現況と対応などの説明を受けている。④ベラルーシ赤十字にてカルヴァノフ総裁を表敬訪問。ここでも、チェルノブイリのみならず福島原発事故の対応などが話題となった。⑤再教育アカデミーにおける講義。本学学生も参加している。⑥日本医科大学の学生、医師と記念撮影。⑦プレスト州立病院における甲状腺内視鏡手術。

瘍^{よう}でしたがトラブルなく終了しました。

2011年は、5月にテレビ取材の一例をミンスク市で、31歳の女性に対し内視鏡手術が行われました。当科から五十嵐健人医師が同行し、手術の助手を務めてもらい、万全の態勢で手術に臨みました。術中思わぬ出血の対応に難渋しましたが最後は合併症もなく終了いたしました。4cm前後の良性結節性甲状腺腫でした。

現地医師の熱意と、 支援活動の広がりを実感

秋の検診では、ミンスク市のミンスク10番病院で、9月27日に26歳の女性、29日にプレスト市で28歳の女性に対し手術が行われました。プレスト市の一例は悪性が否定できず、術中に摘出した腫瘍の剖面からスタンプによる細胞標本を作製し、術中迅速細胞診断を行いました。アルツール医師が顕鏡し良性の診断をもらい、手術室で胸をなでおろしました。この場面は今まで細胞診の技術指導から始まった

検診活動がこのような形でも実を結んでいることを実感し、アルツール医師の診断技術を信頼したことであり、まさに検診による細胞診検査の集大成の場面でありました。このようなわけで、昨年は一年間で3例の症例が現地で行われました。またプレスト市では最初に行われた2009年以来、彼ら独自で工夫した方法と機器を用い、すでに14例の患者さんに甲状腺内視鏡手術が行われていると聞き、大変うれしく思い、本術式のこの国でのさらなる普及を確信しました。

本年も、秋には検診期間中(おそらく9月15日から)にミンスク市とプレスト市で二例ずつの内視鏡手術が予定されており、プレスト市では、彼ら自身での手術が何例となったか、術式がさらに改善されているかを知るのが楽しみであるし、ミンスク市ではこの手術が始まっているか、実行に向かってどんな準備が進んでいるかを知ることなど楽しみがあります。

ライフワークとして、日本でも甲状腺疾患への対応を

前回の訪問は、東日本大震災の半年後でした。私達が、例年のごとくカルヴァアノフ赤十字総裁、松崎潔駐ベラルーシ大使を表敬訪問した際、大震災そして福島原発事故後の日本の状況を大変心配しておられました。私は、事故の規模、事故後半年経過した現状を報告するとともに、果たして我が国は今後どうなっていくのか、どうしていくべきか、また、ベラルーシでは事故直後から25年以上を経過した現在まで政府、地方行政はどのように対応してきたのかを訊ねてみました。総裁も大使も真剣に時間をかけて話してくれました。この内容はいづれ機会をみて様々な形で報告したいと思っております。

我が国では、対応の一端として福島原発事故で被災した18歳以下の被曝者40万人に対し生涯にわたる定期的甲状腺検査がスタートしました。

これらの対応を中心に、私は1

999年より参加させていただいているこの「チェルノブイリ原発事故後の甲状腺がん検診」活動の経験を生かし、今後、福島原発事故に起因する甲状腺疾患を危惧する方々のみならず、一般の方々も含め甲状腺検査を希望する皆様への対応、甲状腺疾患と診断された方々の治療も含めた対応をしっかりと行っていきたく改めて感じています。この事は、私の今後のライフワークであるとも感じているところです。

清水 一雄

日本医科大学外科学講座主任教授・内分泌外科部長
(内分泌・心臓血管・呼吸器外科部門)。

1999年よりチェルノブイリ医療支援ネットワークによるベラルーシでの甲状腺がん検診プロジェクトに協力。近年はベラルーシにおいて、甲状腺内視鏡手術の普及に努めている。



いまさら人にはきけない?! ひりひりの物語 〜リユーダ・ウクラインの場合(後)〜 チェルノブイリ



リユーダ・ウクライン (愛称 リューダ)

ところが――
摘出した甲状腺に、
がんはありません
でした

翌日――
どうやら、
手術はうまく
いったみたいだね

たすけて…

手術室は
2人同時に
手術するから、とりのり
ベッドの血が見えて…
もし
失敗したら…

うん…
リユーダ、
あした甲状腺を
切り取る手術だね

まだわからない
将来のことよりも、
今をだいにしよう
そうだ、わたしと
同じ境遇の人たちの
力になりたいな

でも、
今ここにわたしの生命はある

これから、いったい
どうなるんだろう
薬を飲み続け
なきゃいけないし、
疲れやすくなった
それに将来、
赤ちゃんを
産めるんだろうか…

ええっ！
じゃあ、手術
しなくてよかった
ってこと？！
半年は音が
いかなかった

さらに勉強を重ね、
臨床心理士として
心の傷によりそう
仕事についたのよ
自分の傷を、
ほかの人たちに役立てる
ようになったんだね

わたしたちから
こそできる
仕事がある…
よくわかるわ
わたしも同じ…

チロキシン
だよ
※甲状腺を摘出した人が、
一生飲み続けなくては
ならないホルモン剤

大学に入学したリユーダは、
臨床心理学を専攻
甲状腺がんを経験
した子どもたちの
心理療法に携わった
こわいものはなに？

さあ、
次はだれに会えるかな？

「ひとりにじゃない」
「支えてくれる人が
いる」ということが
大切だと話して
くれたよ
うーん、今、日本の
ほくたちにとっても
すごく大切な事に
思えるよ



今は、娘のアンナちゃんと
しあわせに暮らしているのよ

2005年には、リユーダも
お母さんになった

事務局日誌より 主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。
<http://www.cher9.to/>

◆2月27日 古賀東中学校へ講師派遣



福岡県古賀市にある古賀東中学校へ講師派遣に行ってきました。3年生全クラス合同での社会科の授業にて、チェルノブイリ原発事故の概要や現地での医療支援活動などを報告しました。3・11以降、放射能や原発に対する関心が高まった生徒さんも多かったです。

報告を聞く生徒のみなさん

◆3月22日 倶楽部FUNNで活動報告



NGO福岡ネットワーク(FUNN)の月例企画「倶楽部FUNN」にて、団体の活動紹介や放射能の影響や問題点などをお話させていただきました。参加者が少なく残念でしたが、FUNN事務局長の美味しい手料理を堪能することができました。

春野菜と鶏の料理を堪能！

◆3月3日、4日 ふくおかボランティア祭り



猫さんが撮影にご協力

福岡市立中央市民センターで開催された「ふくおかボランティア祭り」にブースを出展し、活動紹介や物販などを行いました。一般の来場者はそれほど多くありませんでしたが、詳しい話を聞いてくださったたり、ボランティアの問合せがあったりなど、色々な出会いがありました。

◆4月29日 アートバザールにブース出展



展示ブースです

福岡市東区の海の中道海浜公園にて開催された、手作り品の販売や体験型ワークショップが楽しめるイベント「アートバザール」にブースを出展し、福祉工房「のぞみ21」雑貨などを販売しました。人出はあったものの、売上はさっぱりで、子どもが楽しめるアイテムがあるといいなあと思いました。

◆5月3日 第2回北九州9条まつりに参加



天候にも恵まれました

昨年につづき、「北九州9条まつり」が開催され、今回もブースを出展させていただきました。「のぞみ21」雑貨や支援コーヒーなどを販売したほか、ステージで活動紹介をしました。シオルダーバッグが3つも売れてビックリしました。やはり直接手にとって見てもらえると良いのだなと思いました。

☪ ☪ ☪ ☪ コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内 ☪ ☪ ☪ ☪

～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

おいしいコーヒー、紅茶を飲んで、気軽にチェルノブイリ支援に参加しませんか？

期間中、商品(コーヒー・紅茶、のぞみ21雑貨、書籍)を合計5千円以上ご注文いただいた先着15名の方に水出しアイスコーヒーのお試しパック(※)をプレゼントします！



期間 2012年6月15日(金)～7月15日(日)まで

ご注文はTEL/FAX、メール等でお気軽に事務局まで。
お買上げ総額5000円以上で送料無料となります

※お試しパックの内容:極深煎りのコーヒー粉50g(約1リットル分)+説明書付き



私も応援しています!

会員さん 紹介コーナー

Vol.14

このコーナーでは、チェルノブイリをともにお支えいただいている会員の皆さまより、活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材/河上

本日の会員さん

久保山 千可子さん
菜摘さん

<福岡市>

チャリティーコンサートで支援の輪を

2010年の『ぞうれっしやがやってきた』記念音楽会の実行委員会

で、チェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)理事の小山さんに会ったのが、CMNを知るきっかけでした。その後、「第7回ル・セルクル久保山菜摘チャリティーコンサート」を企画するときに、ちょうどチェルノブイリ原発事故25周年ということ、それにゲストが歌手の米良美一さんということ

で、『わたしたちの涙で雪だるまが溶けた』の作文を朗読したらどうかということになりました。第7回コンサートは全部で5回の公演でしたが、そのうちの九州(福岡市、鹿児島県始良市、大分県日田市)の3回の公演で、

菜摘のピアノの演奏をバックに、『雪だるま』の作文を米良さんに朗読して頂きました。

菜摘がチャリティーコンサートを

始めたのは、小学5年生の時、平和授業で「世界には苦しんで生きている人がたくさんいる」ということを知り、「私に何かできることはないだろうか?」と思い、大好きなピアノを弾くことで困っている人達の力に少しでもなれたら、そんな思いからでした。

第1回は12歳、小学6年生の時でした。子どもではそんなに大きなことができないので、第1部と第2部に分けて、2部にゲストをお呼びしてスタートしましたが、今ではゲストの方々から協力させて下さいと言われるようになって、すばらしい方々が出て下さっています。そして、福岡で一公演をやっていたものが全国公演になり、募金も増えていったのです。募金を集めることだけが目的ではなくて、世界にはこういう現状があるという



ピアニストの菜摘さん(左)と千可子さん(右)

り、それもチャリティーの目的の一つであると思うようになりました。

チャリティーを始めたころは、日本は割と裕福だから、海外の困っている人に募金するという主旨が強くて、何に募金するのかわからなかった。しかし、小山さんから何か一つに絞って内容を提示したら、もともと勉強になるのではと言われて、チャリティーコンサートに来たらその内容を

知ることができるようにしたのです。じゃあ、何をテーマにするか話し合い、4月26日がチェルノブイリ25周年ということ、それを取り上げることにしました。そしてたまたまコンサートの直前に福島原発事故が起きたのです。コンサートではそのことも含め、

大変興味深いチェルノブイリの子ども

達の作文を取り上げ、勉強させて頂くことができました。

また菜摘が6歳の時に、ロシアとの交流コンサートでモスクワへ行き、モスクワ音楽院、プーシキン美術館、グネーシン音楽院などで演奏させて頂きました。そして、2000年にはスロヴァキア・ブラチスラバの国際ピアノコンクールで第1位と特別最年少優秀賞を受賞しました。そういうわけで、ロシアやベラルーシには親しみを感じます。家にはたくさんさんのマトリョーシカもあります。2015年にはポーランドへのスタディツアーを考えているので、ぜひベラルーシまで足を延ばしたいですね。(談)

菜摘さん Profile

1992年生まれ。4歳よりピアノを始める。1998年、モスクワでの日口交流コンサートに参加。ドイツ・ベルリン国際スタインウェイコンクールにて第2位、聴衆賞、コンサート賞を受賞。その他、国内外での受賞多数。



昨年4月の第7回コンサートでは、ゲストに米良美一さんを招いて、「チェルノブイリ原発事故から25年…」というタイトルで開催(※詳細は「チェルノブイリ通信」84号で報告)。コンサートは今年で8年目となる。現在、桐朋学園大学音楽部2年在学中。

たくさんのご支援を ありがとうございます。

(順不同・敬称略)

- 浅原望樹 阿部悠孝 荒井真佐子 荒木潔枝 井形和子 石川治
- 療院 石川雅之 石橋芳子 板井順子 井上信子 井上美津子
- 今井亜紀子 入江東樹 岩永清子 上野三佳子 宇都宮裕子 有
- 働聡美 江越知佳子 円藤純子 大池葉子 太田千賀子 大塚厚
- 大野弘恵 大庭美登里 大矢洋子 岡ひかり 岡田信子 緒方
- 靖子 緒方ミサ子 岡原美知子 岡本里美 小川久喜 沖・中西
- 小野尚子 片岡直樹 金山涼子 上柿元啓子 飯屋園幾代・今
- 日花・泉介・栴 川崎巳代治・幸子 川原秀之 姜秀子 久保亜希
- 栗山洋子 古賀えみ子 古賀征子 古賀富美子 古賀めぐみ
- 財津悠子 佐々木信子 貞池和恵 佐藤久美 サトウ矯正歯科ク
- リニック 波田幹子 下城桂子 下園理香 庄籠道子 杉里香
- 角崎美礼 駿河みどり 高澤美貴 高橋紀恵 高藤富美子 高森
- 清子 高山幸子 田中えみ子 田中直子 田中幸村 谷口美江
- 遠山祥子 徳永由美子 豊永順子 永雄千恵子 中川いく子 中
- 島まゆみ 長瀬清 永野隆文 中村京子 中村勇人 中村順子
- 西浦ちえみ 日本医科大学 学長田尻孝 野中孝子 野村啓子
- 橋爪紀生子 長谷川ともみ 秦マキ 林田洋子 原博一 平島懐
- 子 深堀ミチ子 財団法人福岡YWCA 福壽淑子 富士埜富美
- 子 藤本厚子 藤本和子 船越あつこ 古澤正代 本田美穂子
- 松尾菊恵 松尾満子 松下卓治 松下雅子 松下京 松田泉 松
- 本京子 松本清子 丸山さより 宮田永子 宮寺好美 宮本京子
- 宮本美智子 村上和代 室田美津香 本岡眞利子 森悠子 森
- 利江 守山美佐子 諸隈啓子 八木晃子 山浦真弓 山口直子
- 山崎昌美 山田靖子 吉井紀子 吉田雅子 吉元京子 若松静美
- 和氣由美 和田政子 和田祥子 渡辺雅宏

(都道府県別)

- 【東京都】3名 【茨城県】1名 【埼玉県】1名
- 【長野県】1名 【愛知県】1名 【三重県】1名
- 【大阪府】1名 【和歌山県】1名 【兵庫県】2名

編集後記

今回はA4サイズになって初めて8ページとなりました。ページが減っても中身の充実した紙面になっています。Q&Aコーナーに取り上げてほしいテーマがありましたら、事務局までお知らせください。(河)

合計	2,375,234円
活動支援金	2,159,334円
のぞみ21カンパ	75,500円
雪だるま3号カンパ	24,500円
東日本支援カンパ	115,900円

- 【島根県】4名 【広島県】8名 【山口県】7名
- 【福岡県】52名 【佐賀県】6名 【長崎県】11名
- 【熊本県】16名 【大分県】5名 【宮崎県】1名
- 【鹿児島県】8名
- マンスリーサポーターの皆さん
- 相川靖 相羽美香子 石本祥二郎 磯道綾子 一瀬和美 福田照子
- 井上礼子 岩口香織 上田英子 植田清子 内野千鶴子 有働聡
- 美 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太
- 田昌子 大場満 片岡八重子 金山涼子 紙森優子 河上雅夫 川
- 崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 後
- 藤宇企子 財津悠子 斉藤美代子 坂口馨子 櫻井美喜子 佐竹早
- 苗 佐藤二江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 首藤展子 高山
- 知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由
- 利子・朱加 綱脇牧子 坪川裕子 富永隆史 友景忍 鳥井原桐子
- 島原良子 永江之子 永尾ゆかり 永野沙智子 中村洋子 榎崎
- 悦子 西井えりな 西首延子 丹羽道代 納富育代 平原久子 廣
- 松初美 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤本孝子 洲田三輝 古
- 川恵子 松尾智恵子 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子
- 村田聡子 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 森川キミエ 山下
- 澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美紗子 吉野陽子 渡邊真志子
- 計113名(匿名含む)

(2012年2月1日〜4月30日までに募金をして下さった方、ならびに「のぞみ21」雑貨、支援コピー・紅茶の購入を通じて活動を支援して下さいました。通信にお名前を紹介することを許可いただいた方のみ掲載しています。)

皆さまからのメッセージ(一部抜粋)

●息永く活動していきましょつ。忘れない、忘れてはいけない。●少しでも支援になりますように！●子どもたちが笑顔になりますように。すべて縁になる日まで信じています。●私のやりたくともできないことを代わりにやってくさって感謝しています。●これからもできることとで支援していきます。●未来の笑顔をお願いします。●若者たちのペラルシ座談会、興味深く読みました。●原発事故、もうくり返させたくない！●福岡市市民国際貢献おめでとうございませう。●遠くからですが、応援できる事からやっています。子ども達もつなげていきます。●今、この時も支援活動しておられる皆さんに頭が下がります。できることは何かを、私も考えます。●長きにわたる支援すばらしいです。チェルノブイリから学ばなければいけないと今さらながら思います。●原発のない世界の実現を願っています。●少しですが、子ども達のために役立ててもらえればうれしいです。●世界中に原発、放射能で苦しむ人がいなくなりましょつに！●チェルノブイリでの取り組みが今後日本の子どもたちを支える力になりますように。●日本から原発をなくしたい●地球の為に世界の為に我々のために有効に活用して戴けますように！●東日本大震災も応援しています。●絶対に脱原発！●少ないですが、長く続けていきたいです。●ていねいで素敵な(のぞみ21)の品々、大切にに使わせてもらいます。●医療を受ける子ども達が早く元気になりますように。●内部被曝の事、居住区域の事、今まで以上にチェルノブイリより学んでいきます。●一日も早く原発のない世の中になりますように。●東北の子どもたちの未来の為にカンパします。一人でも多くの女性に赤ちゃんが抱けますように。●チェルノブイリの人々の幸せをお祈りしています。